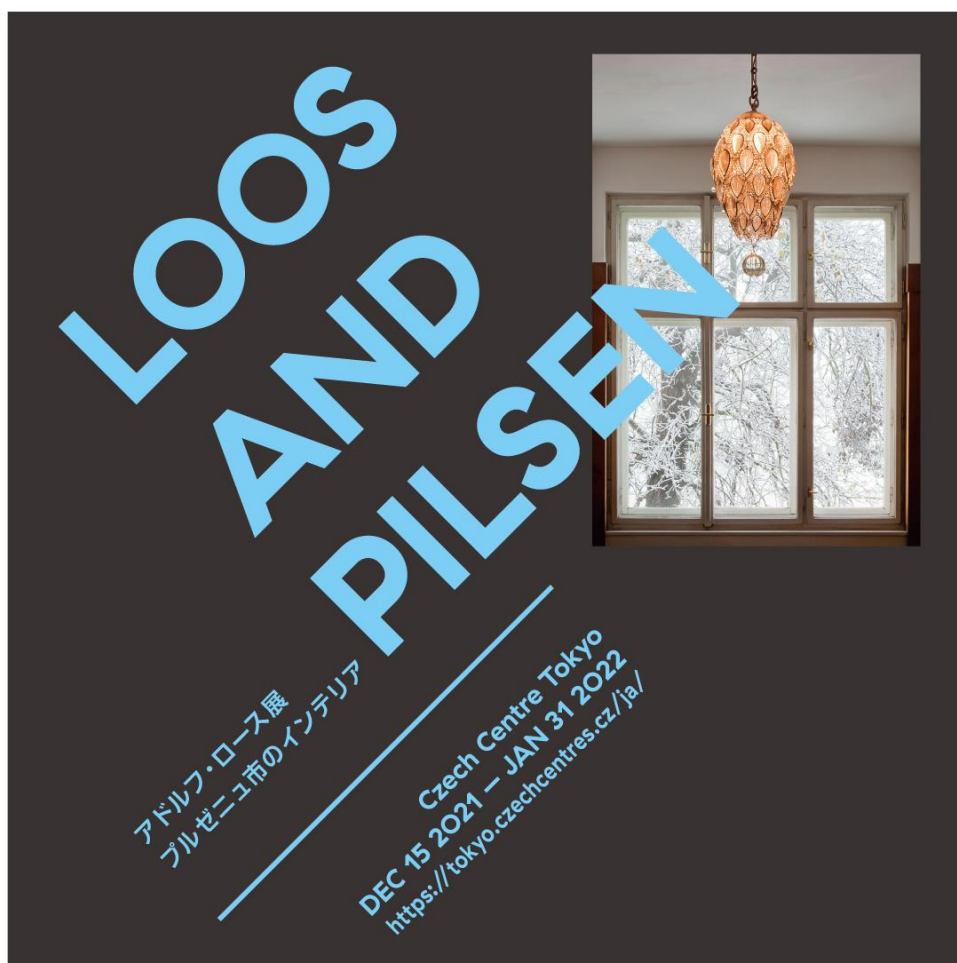


【展示のご案内】



LOOS AND PILSEN アドルフ・ロース展 プルゼニュ市のインテリア

2021 年 12 月 15 日（水）～2022 年 1 月 31 日（月） / チェコセンター東京（渋谷区広尾）

昨年生誕 150 周年を迎えたチェコ出身の世界的建築家、**アドルフ・ロース**。その思想と建築作品は、当時の建築だけでなく、その後の現代建築の在り方にも世界規模の影響を与えました。このたび、ロースが 20 世紀前半に長期にわたり取り組みつつも、チェコ国外ではあまり知られていなかった**プルゼニュ市内の類を見ないインテリアデザイン**をご紹介します。展覧会を、**東京・広尾のチェコセンター東京**にて開催いたします。

展示の主なねらいは、**プルゼニュ市におけるロースの活動をより広い文脈で捉える**ことにあります。1907 年以降の初期の作品と、ヒルシュ家やベック家との重要な関係、そしてウィーンとのつながりを紹介します。また、1927 年にプルゼニュに戻り、ブルメル家やゼムラー家、フォーグル家、クラウス家といった多くの資産家の邸宅を設計したことにも注目し、現代における邸宅の修復の様子や、ロースや家主の家族についても言及しています。会場では、**東洋大学**の協力のもと、**建築模型**や **3D 映像**、**VR 映像**なども併せて展示いたします。夕刻には会場外壁に口

ースが手掛けたインテリア画像の**投影**も行います。建築家アドルフ・ロースの世界をご体験ください。皆さまのご来場をお待ちしております。

詳細：[チェコセンター東京ウェブサイト](https://tokyo.czechcentres.cz/ja/program/loos-and-pilsen)

<https://tokyo.czechcentres.cz/ja/program/loos-and-pilsen>

開催概要

LOOS AND PILSEN アドルフ・ロース展 プルゼニウ市のインテリア

- **会期**：2021 年 12 月 15 日（水）～2022 年 1 月 31 日（月）
※土日・祝日、12 月 24 日（金）および 12 月 29 日（水）～1 月 3 日（月）は休館
※**1 月 22 日（土）は特別開館**
- **開館日時**：10:00～19:00
- **会場**：チェコセンター東京
150-0012 東京都渋谷区広尾 2 丁目 1 6 – 1 4（チェコ共和国大使館内）
- **入場無料**
- **主催**：チェコセンター
- **キュレーター**：ペトル・ドマニツキー（プルゼニウ市西ボヘミア美術館）
- **パートナー**：プルゼニウ市西ボヘミア美術館、プルゼニウ市、Adolf Loos – Plzeň、プルゼニウ州
- **グラフィック**：ヤン・ディンスビール（Busek&Dienstbier）
- **協力**：[東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 櫻井義夫研究室](#)
- **日本語パネル翻訳**：櫻井義夫（東洋大学教授）

※本研究及び活動費用の一部は、一般財団法人乃村文化財団の助成金によるものです。

展示オープニング

- **日時**：2021 年 12 月 15 日（水）19:00～
- **会場**：チェコセンター東京

今回の展示にご協力いただきました東洋大学の櫻井義夫教授もお招きする予定です。

ご参加希望の方は、以下よりお申し込みください。

<https://forms.gle/oevGLJNw8kZfT1Ug9>

※お申し込み後、改めてチェコセンターよりご連絡いたします。3 日以内（土・日・祝日を除く）に連絡がない場合はチェコセンターまでご連絡ください。



展示趣旨

ブルゼニュ市におけるロースの重要な作品群は、ブルゼニュの西ボヘミア美術館で行われた展示「LOOS – PILSEN – CONNECTIONS」により、チェコ国内では文脈的解釈が行われ、反響を呼んでいます。また、ブルゼニュ市の共同出資による再建の後、2015 年に受賞した欧州文化都市プログラムを通して、ロースがインテリアを手がけた邸宅のいくつかは整備され、アクセスしやすくなりました。チェコセンターの企画は、上記 2 つのプロジェクトを元に、西ボヘミア美術館とブルゼニュ市の協力のもと実現したものです。

20 世紀初頭、ブルゼニュはオーストリア・ハンガリー帝国の中でも活発な工業都市でした。つまり、多額の金融資本が集まっていたことを意味します。資本家たちは近代的な生活を望んでおり、質の高い邸宅を持つこともそのひとつでした。チェコ国内で成功していた企業の多くはユダヤ系で、チェコ国外に親族やビジネス上のつながりを持った教養のある階級でした。ロースが初めてブルゼニュの顧客と出会ったのはウィーンでした。こうした顧客たちは、革新的で異端な建築家ロースに対し前向きに協力し、同時に豊富な資金力を持っていたため、有名なアパートメントやインテリアがいくつも生まれました（後に修復・再建されています）。こうした建築物は、建築家・ロースのライフスタイルにおけるモダニズムの思想を示す申し分のない例であり、折衷的で古典的なスタイルの邸宅に垣間見ることができます。同時に、所有者の個性、生活様式、運命によって、ブルゼニュ、そして中欧諸国の社会文化史についての不穏な声明となっているのです。ホロコースト、亡命、共産主義の全体主義体制、そして 1989 年のビロード革命後の自由な時代に関しても触れています。



ブルゼニュ市・ブルメル邸内部 撮影 yoshio sakurai

本展は、ブルゼニュの西ボヘミア美術館が 2010 年より行っている調査研究の成果を紹介するものです。主なねらいは、ブルゼニュ市におけるロースの活動を、より広い文脈で捉えることにあります。1907 年以降の初期の作品と、ヒルシュ家とベック家の重要性、そしてウィーンとのつながりを紹介します。また、1927 年にブルゼニュに戻り、ブルメル家やゼムラー家、フォーグル家、クラウス家といった多くの投資家の邸宅を設計したことにも注目しています。現代における邸宅の修復の様子や、現在はチェコ国外に住んでいる、ロースや家主の家族についても言及しています。

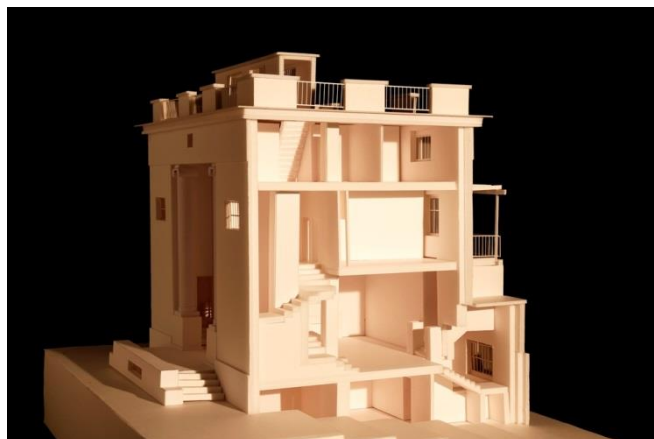
展示内容

- パネル展示「LOOS AND PILSEN アドルフ・ロース展 ブルゼニュ市のインテリア」

● **動画展示**

ロースハウス 1910 Vienna
 シュタイナー邸 1911 Vienna
 ショイ邸 1912 Vienna
 バウアー邸 1914 Hrušovany u Brna
 ルーファー邸 1922 Vienna
 トリスタン・ツァラ邸 1928 Paris
 モラー邸 1928 Vienna
 ブルメル邸 1929 Plzeň

 ミュラー邸 1930 Praha
 オスカル・ゼムラー邸 1932 Plzeň



シュトロース邸模型 撮影 yoshio sakurai

● **模型展示**

サピエハ公の山荘 1918 場所不明
 公営住宅計画 1921 Vienna
 シュトロース邸 1922 場所不明
 屋上庭園をもつ 20 件の共同住宅 1923 Côte d'Azur, France
 ブレッシュ邸 1924 Croissy-sur-Seine, France
 立方体の家 1929 場所不明
 ボイコ邸 1930 Vienna
 フライシュナー邸 1931 Haifa, Israel

● **VR体験**

ロース・インテリアの没入型データーの閲覧

● **屋外壁面展示（夕刻のみ）**

ロース・インテリア画像プロジェクション

《ご来館にあたってのお願い》

感染症拡大防止のため、下記の取り組みについてご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。なお、今後の状況によっては、臨時休館や展覧会・イベントの中止等の可能性もございますので、最新の情報はチェコセンターのウェブサイト・SNS にてご確認ください。

- マスクの着用をお願いします。スタッフもマスクを着用しご対応いたしますので、ご理解ください。
- 入口での手指の消毒にご協力ください。
- 発熱、咳等の風邪症状のある方はご入場を遠慮願います。（激しく咳き込まれる等の症状のある方には、スタッフがお声がけし、ご退館をお願いする場合がございます）
- 観覧の際は、互いに適切な距離（2 m程度）を保つようお願いいたします。

Česká centra

Václavské nám. 816/49, 110 00 Praha 1

T: +420 234 668 211, F: +420 234 668 215

E: info@czech.cz, <http://www.czechcentres.cz>

- 飛沫拡散防止のため、展示室内等での会話はできるだけお控えください。

本企画に関してのお問合せ

チェコセンター東京

150-0012 渋谷区広尾 2-16-14 チェコ共和国大使館内

TEL 03-3400-8129

cctokyo@czech.cz

<http://tokyo.czechcentres.cz/jp/>

- チェコセンターは 3 大陸 26 都市においてチェコ文化の普及につとめている、チェコ外務省の外郭団体です。

